

地域医療構想の推進に向けた公立・公的病院の役割の再検証について

1 これまでの経緯

- 令和2年1月17日付けで、厚生労働省医政局長より、急性期の病床を有する公立・公的医療機関等のうちから**再編・統合について再検証の要請対象となる医療機関を選定し、再検証の要請通知を发出。**

<要請通知の概要>

- 以下の要件に該当する公立・公的医療機関等に対し、再編・統合について再検証するよう要請。
 - ① 診療実績が特に少ない
 - ② 類似かつ近接する医療機関が存在
- 再検証要請の期限
**医療機関の再編統合を伴う場合 → 遅くとも2020年秋頃、
それ以外の場合 → 2019年度中**

※ 国において診療実績データの確認を行い、データが確定するまでは非公開とされた。

※ 人口100万人以上の構想区域（本県では、名古屋・尾張中部構想区域）においては、「類似かつ近接」に関する検討は追って整理するとされた。

- 令和2年3月4日及び令和2年8月31日付けで、厚生労働省医政局長より、**再検証等の期限等について、厚生労働省において改めて整理する旨の通知を发出**
- 令和2年12月25日付けで、厚生労働省医政局医療計画課長より、**再検証要請対象医療機関の追加や民間医療機関の分析を含め、内容を確定した旨の通知を发出。**
 （本県では、当初、9医療機関とされた**再検証要請対象医療機関は、12医療機関**に増加。）
- 令和3年7月1日付けで、厚生労働省医政局長より、**人口100万人以上の構想区域においては、「類似かつ近接」の基準を用いた要請は行わないこととされた。**

2 再検証要請対象医療機関一覧と協議状況

本県の再検証要請対象医療機関は、下表のとおり12医療機関である。

<参考 県内12病院における再検証の検討状況>

（令和4年3月15日現在）

	構想区域	医療機関名	協議状況	合意内容等
1	名古屋・尾張中部	中日病院	合意済	・急性期病床42床を、回復期病床に転換
2	名古屋・尾張中部	国立病院機構 東名古屋病院	合意済	・2018年に408床から330床に削減したことをもって、既に対応済であることを地域の関係者で確認 ・神経難病、重症心身障害児者、結核等の患者の受け皿としての病院の特性を確認
3	名古屋・尾張中部	ブラザー記念病院	合意済	・2018年に急性期30床を廃止済であることを地域の関係者で確認
4	海部	津島市民病院	合意済	・病院全体で440床を352床にダウンサイジング
5	海部	あま市民病院	合意済	・休棟45床を、回復期病床として再開
6	尾張西部	一宮市立木曽川市民病院	合意済	・急性期病床90床を82床にダウンサイジングし回復期病床に転換
7	尾張西部	稲沢市民病院	合意済	・病院全体で320床を278床にダウンサイジング
8	尾張西部	稲沢厚生病院	合意済	・病院全体（精神病床除く）で249床を174床にダウンサイジング ・急性期病床2床を、回復期病床に転換
9	尾張北部	医療療育総合センター 中央病院	合意済	・2018年に110床から89床に削減したことをもって、既に対応済であることを地域の関係者で確認 ・障害者医療に特化している特性を確認
10	知多半島	常滑市民病院	合意済	・2025年4月に半田市立半田病院と経営統合を行い非公務員型の地方独立行政法人として運営予定 ・急性期病床44床を、回復期病床に転換
11	西三河北部	みよし市民病院	合意済	・急性期病床68床を、急性期病床34床及び回復期病床34床に転換
12	西三河南部西	碧南市民病院	合意済	・急性期病床274床を210床にダウンサイジングする計画に併せて、削減する64床のうち22床を安城更生病院へ病床移動